

ヤン・カルスキ 生誕100周年記念

「私はホロコーストを見た」

ヤン・カルスキの黙殺された証言 シンポジウム

2014年 9月 27日 会場：青山学院大学17号館6階 本多記念国際会議場

開場：14:00 シンポジウム開演：15:00 (17:00 終了予定)

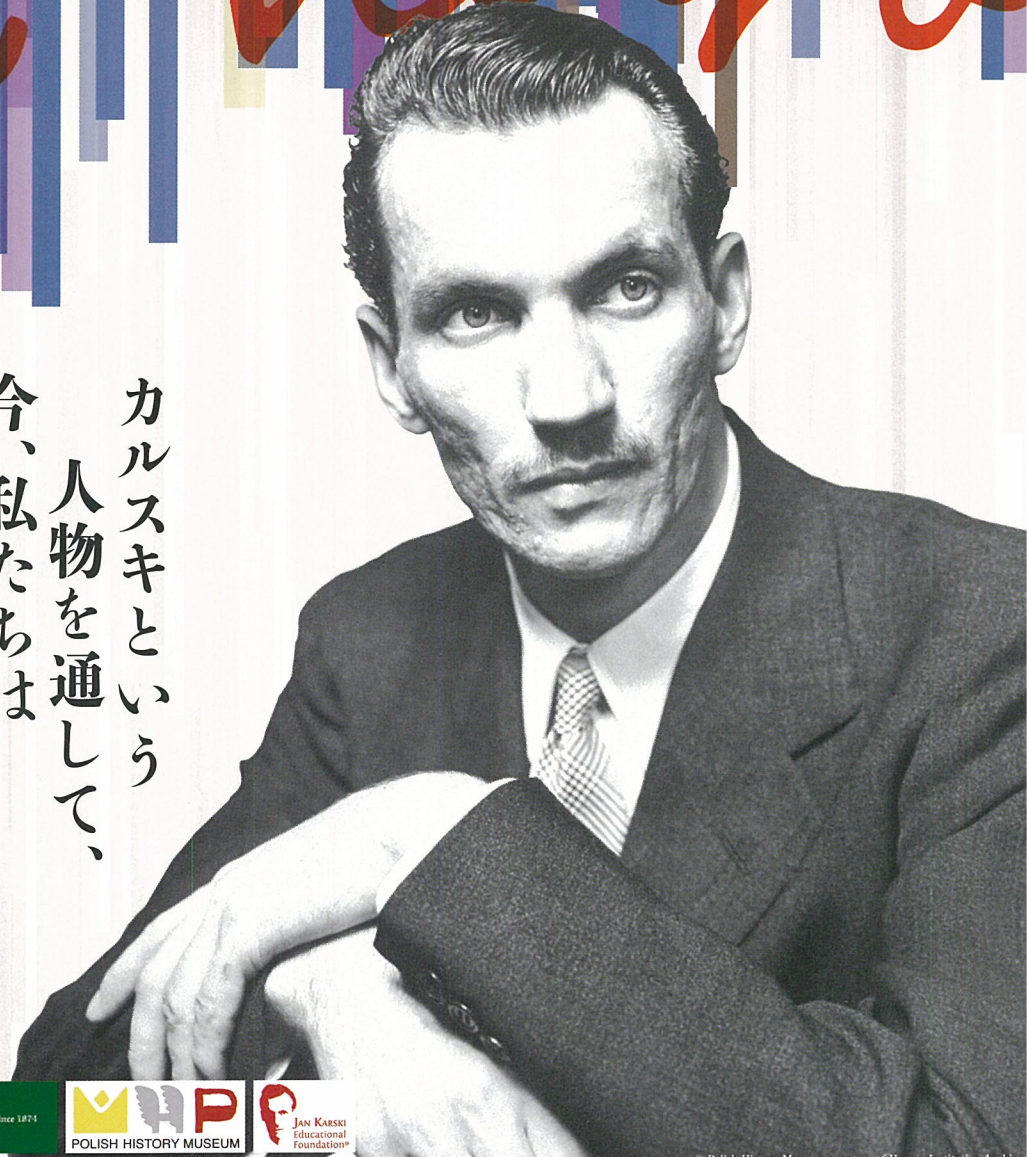
登壇者

クリストファー W.A. スピルマン氏 (九州産業大学国際文化学部教授)、池内紀氏 (ドイツ文学者、エッセイスト)
國分俊宏氏 (青山学院大学国際政治経済学部教授)、割田聖史氏 (青山学院大学文学部史学科准教授)

ヤン・カルスキ展
同時開催

Jan Karski

カルスキという
人物を通して、
今、私たちは
何を感じるか。



K ヤン・カルスキ年
2014

主催：ポーランド広報文化センター
後援：駐日ポーランド大使館、学校法人 青山学院
共催：青山学院大学 総合文化政策学部
協力：ポーランド歴史博物館、ヤン・カルスキ教育財団
白水社、河出書房新社

ヤン・カルスキに関するすべての行事は、「ヤン・カルスキ年」
(企画：ポーランド歴史博物館(ワルシャワ))のプログラムとして実施される。

ポーランド広報文化センター
INSYTYT POLSKI TOKIO

駐日ポーランド共和国大使館

Angama Oskaitis since 1874

POLISH HISTORY MUSEUM

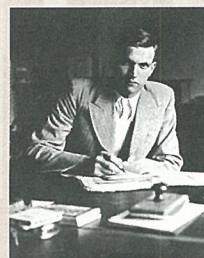
JAN KARSKI
Educational
Foundation

ヤン・カルスキ (1914-2000)

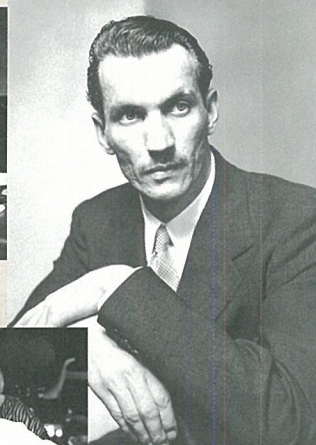
ヤン・カルスキこと本名ヤン・コジェレフスキは学業優秀で外交官となったが、間もなく第二次大戦が勃発。祖国ポーランドはドイツとソ連に分割され、彼は初めソ連赤軍、ついでナチスの捕虜となった。そこでゲシュタポによる激しい拷問に遭い自殺を図るが、搬送先の病院からレジスタンスの同志によって奇跡的に救出され、その後数々の偽名や身分を使いながら（最終的なコードネームはカルスキ）、並外れた語学力と記憶力を武器に、地下活動を続けるポーランド秘密国家に奉仕した。

1942年夏、ユダヤ人指導者らの依頼でワルシャワ・ゲットーや強制収容所に潜入。ナチスによるユダヤ人大虐殺を目撃し世界に伝える、という任務を負う。密使カルスキの報告は、ホロコーストの事実を外部に伝える最初期の証言となるが（ルーズヴェルト米国大統領やイーデン英国外相にも接見した）、列強は様々な思惑の中これを黙殺。結局、ユダヤ人を救う有効な措置はとられなかった。

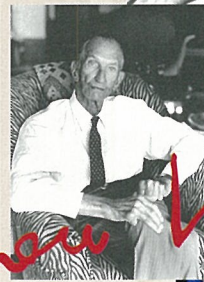
偽名のまま合衆国にとどまったカルスキは、1939年から1943年にかけて体験した一部始終をまとめた手記Story of a Secret State（邦訳『私はホロコーストを見た』）を1944年ニューヨークで刊行。たちまち大ベストセラーとなったが戦後はながらく絶版。カルスキも三十年以上沈黙を守り、大学教員として静かに暮らした。やがて、フランスのランズマン監督の『ショーア』（1985）の証人として再び世間の注目を集める。2000年没。2012年にオバマ大統領は、アメリカ合衆国が民間人に授ける最大の荣誉である大統領自由勲章をヤン・カルスキに授勲した（死後授章）。



© Polish History Museum, courtesy of Hoover Institution Archives



© Polish History Museum, courtesy of Hoover Institution Archives



© Carol Harrison, courtesy of Polish History Museum

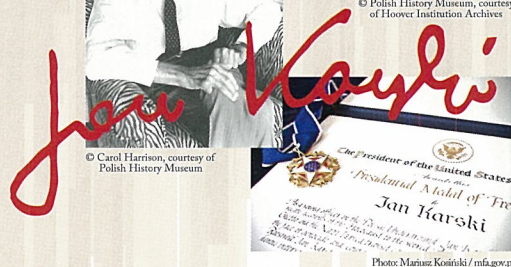


Photo: Mariusz Kosiński / info.gov.pl

当日の流れ

14時 開場

・会場内に設置したヤン・カルスキのパネルを御覧いただけます。

15時 シンポジウム開演

- ・ポーランド駐日大使の挨拶 (予定)
- ・青山学院大学 総合文化政策学部教員の挨拶 (予定)
- ・ホロコーストについて、ポーランドについて紹介
- ・ヤン・カルスキについて紹介
- ・パネルディスカッション

17時 閉会

※当日予定変更になることもございますので、予めご了承ください。

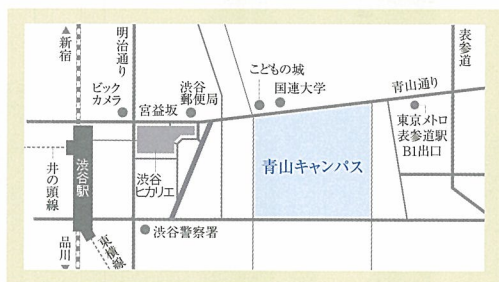
アクセス

正門を入り並木道を直進して、左手に見えてくる大きな校舎が17号館です。その6階が本多記念国際会議場となります。

最寄駅からのアクセス

(大学ホームページ) <http://www.aoyama.ac.jp/outline/campus/access.html>

- JR 山手線、JR 埼京線、東急線、京王井の頭線、東京メトロ副都心線 他「渋谷駅」より徒歩10分
- 東京メトロ(銀座線・千代田線・半蔵門線)「表参道駅」より徒歩5分



シンポジウム登壇者

クリストファー W.A. スピルマン (Christopher W.A. Szpilman)

1951年、「戦場のピアニスト」のモデルになったピアニストのヴワディスワフ・シュピルマンの長男としてポーランド・ワルシャワで生まれる。18歳でポーランドからイギリスに渡り、ロンドン大学日本語学科卒業、エール大学で日本近代政治思想史を専攻。その後、1995年に日本での教員生活がスタート。拓殖大学客員教授を経て、2005年から九州産業大学国際文化学部教授。著作に『満川亀太郎書簡集—北一輝、大川周明、西田税らからの書簡』論創社（共編著）など。

國分俊宏 (こくぶんしひろ)

1967年、和歌山県海南市生まれ。早稲田大学第一文学部卒、同大学院文学研究科修了。専門は現代フランス文学。訳書に、フランソワ・ポン『ローリング・ストーンズ ある伝記』、ロベール・マッジョーリ『哲学者たちの動物園』、アンヌ・ヴィアゼムスキー『少女』などがある。青山学院大学国際政治経済学部教授。

池内紀 (いけうち・おさむ)

1940年、兵庫県姫路市生まれ。ドイツ文学者、エッセイスト。主な著書に『ゲーテさんこんばんは』（桑原武夫学芸賞）、『海山のあいだ』（講談社エッセイ賞）、『二列目の人生』、『恩地孝四郎』（読売文学賞）など。訳書に『カフカ小説全集』（全6巻、日本翻訳文化賞）、『ファウスト』（毎日出版文化賞）など。山や旅、自然にまつわる本も多い。

割田聖史 (わりた・さとし)

1972年、埼玉県生まれ。専門はドイツ・ポーランド近代史。19世紀のプロイセン＝ドイツ領ポーランドを対象に研究を行っている。著作に『プロイセンの国家・国民・地域—19世紀前半のポーゼン州・ドイツ・ポーランド』（有志舎、2012年）がある。青山学院大学 文学部 史学科 准教授。

事前予約・お問い合わせ

- * 青山学院の生徒・学生はこちら [karski100@sccs.aoyama.ac.jp] から事前予約をしてください。
- * 他校の学生、または一般の方の事前予約は下記サイトからか、ポーランド広報文化センター宛にハガキを御送りください。返信通知をお送りしますので当日お持ちください。
- * 事前予約を8月20日までにした学生の方向けに夏休み映画教室の案内をお送りします。

メール宛先: tokio@instytutpolski.org

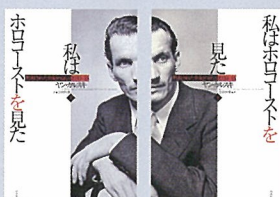
郵便宛先: ポーランド広報文化センター「ヤン・カルスキ シンポジウム宛」〒153-0062 東京都目黒区三田2-13-5

お名前・住所・電話番号・年齢・職業と明記の上、上記メールか、ハガキにて2014年9月5日(金)までに応募ください。(メールの方は件名に「ヤン・カルスキ シンポジウム参加希望」と入れてお送りください)

お問い合わせ: ポーランド広報文化センター TEL: 03-5794-7050

ヤン・カルスキ年 公式サイト <http://instytut-polski.org/event/4872/>

関連書籍



カルスキ自身による証言
『私はホロコーストを見た 黙殺された世紀の証言 1939-43』
ヤン・カルスキ著

記録文学の傑作、本邦初訳。
「誠意と勇気。個人の冒険がそのまま世界の運命につながっている。
どうしてこれがフィクションでないのだ?」池澤夏樹氏推薦!

吉田恒雄訳 四六判 上巻336頁・下巻324頁
定価各3,024円(本体価格2,800円) 白水社刊



フランス人著者がカルスキの苦悩について書いた
『ユダヤ人大虐殺の証人ヤン・カルスキ』
ヤニック・エネル著

ユダヤ人大虐殺の証人として映画『ショーア』にも登場した
カルスキの苦悩、「人間の愚痴、無知、無関心が悲劇を生
んだのだ」というその悲痛な叫びを独創的手法で描く。

飛幡祐規訳 四六判、228ページ
定価: 2,376円(本体価格2,200円) 河出書房新社刊

関連展示・カルスキ展

□ Gallery YUKI-SIS 2014年10月10日-10月13日まで
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町3-2-12 日本橋小楼202
TEL:03-5542-1669 info@yuki-sis.com <http://yuki-sis.com/>

□ 札幌エルプラザ 2階展示スペース 2014年10月27日-11月9日まで
〒060-0808 北海道札幌市北区北8条西3丁目
TEL:090-6447-1700(北海道ポーランド文化協会・佐光) <http://hokkaido-poland.com/>